



管理釣り場の楽しみ

安 藤 隆



私は前の会社を退職し、現在の勤務地である関西(加古川)に単身赴任して今年の6月で2年経過したところです。前職では、半年程ある案件チームの一員として神戸に単身駐在したほか家族帯同で米国子会社に4年半駐在した以外、入社以来一度も転勤がなく関東(横浜・千葉)に居住していました。サラリーマンとしては多分、珍しい部類と思います。

単身赴任の身ゆえ週末はどのように過ごすか時間を持て余すこともあります。5月のGW明けから9月末(つまり気温が高くなる時期)を除き、土日のどちらかは釣りに出かけてほぼ1日を過ごしています。釣りといっても色々ありますが、ここ数年は管理釣り場での鱒のルアー・フィッシングに嵌っており、寮の部屋には10本立てロッドスタンド(釣竿立て)の全てが埋まり、それらに装着するリール(糸巻き)やルアー(疑似餌の釣具)の数々を整理するのに苦労しています。しかも、毎シーズンごとに売り出されるそれらの新製品に目移りしては購入するので、どんどん増殖していきます。自分の釣りの技量不足を装備で補うためと言い訳していますが、単に目新しい玩具が欲しい幼児と同じです。

管理釣り場とは、その名のとおりに管理されている釣り場ですから、養殖された魚が放流され(今では養殖技術が向上し、昔は北海道でしか生息していなかった淡水魚では日本最大のイトウも1メートル近いものが放流されているところがあります)、水も地下水・河川等を利用して、ルールに従い有料で釣りを楽しむ場所のことです。所謂『釣り堀』と変わらないので

すが、人工的にしつらえた釣り場ではありますが、見た目には自然の池・湖に近い環境が整ったところが多くあります。

私が管理釣り場で鱒のルアー・フィッシングをはじめたのは千葉在住時でしたので、福島県・群馬県・栃木県・神奈川県といった、東北から関東一円の釣り場に行っていました。まだ暗い午前4時前に自宅を出発し、現地に夜明け前頃に到着し釣り始めて夕方まで、途中、食事等の休憩をしながら半日を過ごします。魚は随時放流されるので、簡単に釣れるはずと思われるのですが、それがなかなか難しく、釣り場によっては坊主(一匹も釣れないこと)が珍しくないところもあります。釣った魚は制限数内であれば持ち帰りができますので、過去に何匹か獲物を持って帰ったところ、「高速代や釣り場料金を考えると随分高価な鱒ですね」と家人に嫌味を言われたこともあります。その時には「私は漁師ではない。趣味で釣っているので採算など無関係」と嘯きました。足代や入漁料のほかに釣具の購入費等の設備投資費用や私の人件費なども更に考慮すると、釣った鱒はまさに超高級魚です！

今いる関西は関東と違って管理釣り場の数が少なく、ここ2シーズンはもっぱら京都にある釣り場に通っています。シーズンインするとほぼ毎週通っているので、何時とはなく常連扱いされるようになりましたが、私以外にも遠方から名古屋ナンバーの常連さんが同じく毎週のように来られています。魚は明け方と夕暮時によく捕食する習性があり、夜明け頃から釣り



始めますので、釣りに行くにはどうしても朝早く（釣り人曰く、「夜遅く」）起きることが必要となります。釣りに行く前の夜は、明日の釣りに思いを巡らしつつ道具を調べ何時もより早く床に入っても、大物を釣り上げるイメージ・トレーニング（？）でなかなか寝付くことができないこともあり、まるで遠足前夜の子供のようです。

釣りは釣果を得ることも無論楽しいのですが、釣り人の多くは釣りのプロセス自体を楽しんでいるのではないかと私は思っています。管理釣り場の釣りといっても、やはり自然の中であることなので、当日のみならず数日前からの気象・水温等の状況から、当日の他の人の釣具合など、どうしたら自分が満足できる釣果を得られるか色々と思いを巡らす過程が面白いものです。そして、他の釣り人達との釣りにまつわる会話や他愛のない世間話もまた楽しいひと時です。老若男女様々な釣り人が技量の差こそあれ同じ場と時を共有し、一人でも又は仲間連れでも十分楽しめ、全神経を釣り糸に集中することで頭の中を空っぽにして心身をリフレッシュでき、思わぬ着想を得ることすらあります。

今年のGWは久しぶりに東北の那須白河にある管理釣り場に行ってきました。ここは自宅から少々遠いのが難点ですが、広大な敷地に様々な樹木・草花が生い茂り、四季の彩りの変化と天然の湖を思わせる水面が素晴らしい自然環境と、数釣りは難しいですが釣れたら引きが強い大物が多いので、私の一番のお気に入りの釣り場です。今回の釣行でも首尾よく元気で美しい魚体の大物を何匹か釣り上げ満足して一服していると、とてつもなく大きな魚影がゆっくりと目の前を通り過ぎて行きました。なんだろうと、目を凝らして見ると何と2メートル近くはあるチョウザメではありませんか！ 無論、私の釣具でチョウザメを釣り上げることは無謀ですので、その泳ぐ姿を携帯で写真に撮るのが精一杯でした。

このように管理釣り場では、思いもよらぬサプライズが待ち受けていることもあり、手ごろな運動と美しい自然環境の中で心身のリフレッシュを図ることができますので、皆様も機会がありましたら是非ご体験下さい。但し、朝早く（夜遅く）起きて行くことが必要ですが。